

<ニュースリリース>

2014年4月23日
米国研究製薬工業協会

**米国研究製薬工業協会 (PhRMA)
PhRMA 会長に、ファイザー社・会長兼CEOのイアン・リードが就任
メルク社・会長兼社長兼 CEO ケネス・C・フレイジャーが次期取締役会長に、
バイオジェン・アイデック社・CEO のジョージ・A・スキャンゴスが理事会の財務担当者に
それぞれ新任**

※当資料は、米国研究製薬工業協会米国本部が、現地時間 2014 年 4 月 11 日に発表した報道資料の抄訳を日本でまとめたものです。

ワシントン D.C. 2014 年 4 月 11 日：米国研究製薬工業協会(PhRMA)は、このほど開催された年次総会において、ファイザー社・会長兼 CEO、イアン・C・リード(Ian C. Read)が 2014 年 4 月 11 日付で PhRMA の会長に選任されたことを発表しました。また、同時にメルク社・会長兼社長兼 CEO であるケネス・C・フレイジャー(Kenneth C. Frazier)が PhRMA 次期取締役会長に、バイオジェン・アイデック社・CEO のジョージ・A・スキャンゴス(George A. Scangos, Ph.D.)が理事会の財務担当者に選任されました。イアン・リードは PhRMA 会長職をセルジーン社・会長兼 CEO であるロバート・J・ヒューギン(Robert J. Hugin)から引き継ぎます。

PhRMA のジョン・J・カステラニ(John J. Castellani)理事長兼 CEO は、まず「ロバート・J・ヒューギンは革新的な医薬品を患者さんや公衆衛生、また私たちの経済に提供することの真の価値を心得ている人物です。過去一年間に彼が示してくれた、患者コミュニティにおけるパートナーとの対話を新たに創り出すためのたゆまない努力と、私たちの活動分野の価値をより正しく伝えようとする情熱のおかげで、私たちの、イノベーションを推進し、患者さんが新薬に迅速にアクセスできるような環境構築を目指すという方針は大いに活気づけられました。」と前任者・ヒューギンへの謝辞を述べました。

さらに続いて、「医学界の協力体制とヘルスケアの提供が米国内および世界中で急速に進化している時期に、イアン・リードを会長として迎えることは、PhRMA にとって幸運なことです。これから先、私たちが多くの課題や機会に遭遇する中でも、医療制度の将来に対する彼の展望が PhRMA を良い方向へ導いてくれることでしょう。」

ファイザー社の会長兼 CEO を務めるリードは、1978 年に業務監査役としてファイザー社に入社しました。1995 年まではラテンアメリカで、ファイザー・メキシコ社の最高財務責任者(CFO)、ファイザー・ブラジル社のカントリー・マネージャーなどを歴任。1996 年にはファイザー社の医療用医薬品グループのプレジデントに任命され、ラテンアメリカとカナダを担当しました。2000 年にはファイザー・ヨーロッパ社の欧州担当のエグゼクティブ・バイス・プレジデントに就任し、2001 年にコーポレート・バイス・プレジデントに任命され、2002 年には欧州に加えてカナダも担当するようになりました。その後リードの業務管轄は、アフリカ／中東、ラテンアメリカ地域にまで及んでいます。2006 年にはファイザー社シニア・バイス・プレジデント、および世界的なバイオ医薬品業界部門のグループ・プレジデントに就任し、2010 年 12 月までその職にありました。この役職においては、プライマリーケア、スペシャリティケア、オンコロジー、エスタブリッシュ医薬品、新興市場といった世界的な事業部門 5 つを管轄しました。



リード新会長は次のように述べています。「一産業としての私たちの最優先事項と目的は、生命を守る医薬品を最も必要としている患者さんに提供することでしょう。私たちが迎えようとしているのは、イノベーションの新たな黄金期であり、革新的な創薬発見のスピードを速めるべく研究開発の手法が変わりつつあるのです。私たちの目的を達成するためには、市民社会のセグメントすべてを完全かつ確実に支援しているという高い評価を得る必要があるでしょう。つまるところは自らの行動によって評価を受けるわけですから、規制当局、議会、医療従事者、R&D のパートナー、そして、最も大切であり私たちに頼りにしている患者さんの信頼と尊敬を得られるように、現在および将来にわたって努力を続ける必要があります。」

メルク社の会長兼社長兼 CEO を務めるフレイジャーは、以前はメルク社の社長として 3 つの主要部門、メルク社の医薬品およびワクチン製品の販売とマーケティングを担うグローバル・ヒューマン・ヘルス、メルク社の医薬品製造と供給を行うメルク・マニュファクチャリング、メルクの研究開発機関であるメルク・リサーチ・ラボラトリーズを統括していました。1992 年にメルク社の副社長、アストラ・メルク・グループの相談役兼理事に就任して以来、多岐にわたる上級管理職を歴任。ペンシルベニア州立大学で学士号を取得し、ハーバード・ロースクールで法学博士号を取得しています。

フレイジャーは次のように述べています。「PhRMA のメンバーであるバイオ医薬品企業各社が社会にもたらしている目覚ましい貢献には、私も日々刺激を受けています。新しい職責にはファイトがわいてきますし、介護従事者、社会、そして患者さんのヘルスケア向上のために PhRMA が展開している努力を支援できるかと思うと、実に楽しみです。」

スキャンゴスは、1996 年 10 月より社長兼 CEO を務めていたエクセリクス社(Exelixis, Inc.)からバイオジェン・アイデック社に移り、2010 年 6 月に同社の CEO に任命されました。1987 年から 1996 年にかけて、バイエル社(Bayer, Inc.)R&D 部門のシニア・バイス・プレジデントやバイエル・バイオテクノロジー社(Bayer Biotechnology)社長など様々な役職を歴任し、バイエル社の遺伝子組み換え医薬品の研究開発、事業開発、プロセス開発、製造、エンジニアリング、品質保証を手掛けています。1987 年にバイエル社に入社する前のスキャンゴスは、ジョンズ・ホプキンス大学で生物学の教授職にありました。コーネル大学で生物学の学士号を、マサチューセッツ大学で博士号を取得しています。

スキャンゴスは次のように述べています。「私たちは現在医療革新の時代を迎えており、ここでは、アルツハイマー病から ALS、また様々な癌に至るまで、対策がほとんど確立されていないがゆえに最も挑みがいのある病気に対する治療法を見出す機会が提示されていると言えるでしょう。成功のためには、優れた科学に限らず、堅実な公共政策が必要です。医薬品業界が提供する成果を患者さんが十分に享受できるような世界を目指して、医薬品業界の関係者や政策立案者などと協力を推進していく所存です。」

● 米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

PhRMA は、米国で事業を行なっている主要な研究開発志向型製薬企業とバイオテクノロジー企業を代表する団体です。加盟企業は新薬の発見・開発を通じて、患者さんがより長く、より健全で活動的に暮らせるよう、先頭に立って新しい治療法を探求しています。加盟企業の新薬研究開発に対する投資額は、2000 年からの累計では 5,500 億ドル以上に達し、2013 年単独でも推定で 511 億ドルになりました。

● 米国研究製薬工業協会 (PhRMA) 東京オフィス

PhRMA 東京オフィスは、米国の研究開発志向型製薬企業の日本法人で構成されており、画期的新薬が開発できる環境や患者さん中心の医療制度の確立に向けて 25 年以上に渡って活動を続けています。加盟企業は、アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社、アッヴィ合同会社、MSD 株式会社、セルジーン株式会社、日本イーライリリー株式会社、バイオジェン・アイデック・ジャパン株式会社、ファイザー株式会社、ブリストル・マイヤーズ株式会社、ムンディファーマ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社(五十音順)の 10 社です。

- PhRMA 東京オフィスホームページ <http://www.phrma-jp.org>
- PhRMA ホームページ <http://www.phrma.org>

【本件に関するお問い合わせ】

米国研究製薬工業協会 (PhRMA) 広報事務局
(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

TEL: 03-3291-0118

FAX: 03-3291-0223

E-mail: phrma_pr@jc-inc.co.jp

担当: 村田/青木/齋木

〒101-0065 東京都千代田区西神田1-3-6 ウエタケビル4F